

## 図書館利用者と大泉図書館長との懇談会

- 1 日時 平成 29 年 10 月 28 日（土）午前 10 時～11 時 30 分
- 2 場所 大泉図書館 視聴覚室
- 3 参加者 利用者 21 名  
図書館 4 名（館長、館長代理、学校総括支援員）
- 4 テーマ 「地域の図書館として、大泉図書館に期待するサービスとは」
- 5 配布資料 (1) 練馬区立図書館ビジョン（概要版）  
(2) 図書館だより第 25 号  
(3) 大泉図書館実施事業紹介パンフレット（13 枚）  
(4) 地域資料コーナー展示資料 2 種  
「練馬区いいところ 10 選!」  
「いっぽ にいほ さんぽ! 近くのいいところみつこう!」
- 6 次第 (1) 大泉図書館長挨拶  
(2) 図書館事業説明  
(3) 懇談

## 図書館利用者と大泉図書館長との懇談会 会議録

### 1 大泉図書館長挨拶

前年度の懇談会のときに皆様からご意見をいただいた中で、練馬区の図書館全体に関わるものとしてはこちらではすぐに対応できないのですが、自分たちのような図書館利用団体の案内や活動の様子、活動報告などを図書館で掲示してほしいというご意見をいただきまして、エレベーターの横にあるリサイクル掲示板の一角を活動報告の掲示版としました。掲示板を活用し、活動報告、会のイベントの案内をして頂いてお客さんが来てくださったりと、主催した会の会員の方が増えたりすることもありますので、こういったものをお渡ししているかと思いますが、何か自分たちも掲示したいよということがございましたら、お声かけください。

前回、初めて（懇談会に）参加された方が、図書館がこんなにいろいろ活動をしていることについて驚いた、これらの活動をパネル展示するとか、もっと一般の人々にも知らしめる工夫をしてほしいというご意見をいただきまして、ちょうど今実施しているところで

すが、1階の庭園側で今年度4月から行った事業の主なものについて展示しております。  
ご覧ください。

布の絵本の製作をされている方たちがいらっしゃって、「頑張って作っているので新作を一般の人が見ることができるよう、1階に展示してほしい」というご意見をいただきました。布の絵本は2階の児童室にございまして、一般の方はなかなか上がって見ることがないので、今年度7月に1階の雑誌架の上で展示をいたしまして、いろいろな方に見ていただくことができました。こういった形で皆さんからいただいた意見を館運営に反映させていければと思っております。

今回の資料には付けていなかったのですが、最近いろんなところで地震が発生することがありまして、地域での防災ということをととても意識するようになっております。大泉図書館は、「一時避難所」になっております。これは地震が起きた時に、揺れがおさまるまでとか一時的に場所を提供したり、皆様に最新の情報を提供するような場所となっております。地震の時当館は「一時避難所」ですけれども、では避難拠点ではどういうことがされているのか、避難拠点は何をするとところなのかかわからないとご案内もできないと思ひまして、去年大泉北小学校で行われた避難拠点訓練に、私が参加いたしまして実際の体験をしてまいりました。

そこで区の方からもお話しいただいたのですが、練馬区の人、学校の人、学校のボランティアの方、地域の町会の方、いろんな方が集まる場所なので、そういう機会にちゃんと顔が見える関係になっておくことで本当に困った時に役立てられればと思っております。今年度も同じく11月に避難拠点訓練がございますので、そちらにも参加する予定となっております。

今回、地域という切り口で事業についてご説明いたしました。まだまだ私たちの取組は始まったばかりのものもございまして、本日お集まりの皆様のお知恵をお借りして、より地域の情報発信基地として大泉図書館が存在していけるようになりたいと思っております。ということで、色々なご意見をお聞きできればと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 2 図書館事業説明

省略

### 3 懇談

**利用者** 今縷々と館長から説明がありましたイベントですね、たくさんやっただいて私はじめて聞いたのがほとんどです。どういうふうに皆さんに開くよということ流していらっしゃるのでしょうか。それから効果がどれだけあったか、つまり図書館にどれだけ利用者が増えたか、それをやったために。そういうことがちょっとあったらお聞かせ願いたい。

**図書館** 告知の方法ですが、練馬区全体に周知しなければいけないようなもの、また多くの方に参加していただきたいイベントにつきましては、ねりま区報での告知をしております。20人とか30人とか小規模な事業につきましては、館内のポスターやチラシ、それと練馬区の図書館のホームページの中の、大泉図書館のところに事業予定というところで告知をいたしております。効果はというところですけど、これをやったから10人利用者が増えましたとか、そういった目に見えるものっていうのはなかなか難しいところでございます。

**利用者** 利用者はどれぐらい増えているんですか。

**図書館** 大きくくりで申し上げますと、大泉学園駅に受取窓口ができて、利用者数としては微減というところなんです。利用者数を増やすだけではなくて、大泉図書館の地域のイベントとして皆さんに有益な情報を発信できたらなということで、有益な情報を発信するために事業をしております。

いちばんわかりやすいものとしては、9月に行いました「図書館で認知症予防」という事業があります。高齢化社会ということで認知症については参加された人の中には実際にご家族で認知症の方がいたりして、すぐるような気持ちでいらっしゃった方ですとか、今は自分に関係ないんだけどもそういったところで興味のある方等もいらっしゃいまして、本当に真剣にお話を聞いていらっしゃいました。こういった事業は1回だけで終わらそうということではありませんので、まず、基礎知識を学んで、じゃあ図書館でどういうようにしたら認知症を予防できる活動ができるか、というところを先生からお話をお聞きしまして、それだけではなく、最終的には自分たちで活動しないとうまくいかないのかなあというところがありますので、長期的に考えて事業をしようと考えております。利用者数というものも、図書館を見る時の目安だとは思いますが、それだけでなく、内容をどれだけ皆さんに伝えられるかというところにも注目して事業を行っていきたいと思っております。

最初の5年間というのは、「大泉図書館が指定管理者での運営になりました」ということを知っていただきたくて、人が集まるような事業を主眼に考えてきましたけれども、最初の5年が終わりまして大泉図書館の地域性だとか、いらっしゃるお客様の特性というのがわかってきたところで、それも単純に本の貸出返却ということではなく、図書館が真ん中であっていろんな人と手をつないでいければいいなと思っておりますので、そういったことを主眼にしてそのための事業として何があるかなというように考えていろんな事業を計画していこうと思っております。

利用者      ありがとうございました

利用者      ちょっと宣伝してもいい？

図書館      大泉図書館で活動している団体との協働というのも考えておりまして、その一例としてお話いただくということでお願ひします。

利用者      いつも図書館さんからはいろいろな心配りをいただきまして非常に助かっております。年に1回ここで発表会をさせてもらっておりまして、来月、朗読発表会をさせていただくことになっております。ぜひおいでいただきたいと思ひます。

図書館      図書館でも皆様の活動のお手伝いできればと思っております。お声かけ頂ければお手伝いさせていただきますので、よろしくお願ひします。

利用者      ご存知のように藤沢周平さんは4丁目の交番の先に、20年ちょっと住んでおられた。1997年に亡くなりましたから、ちょうど20年ちょっとあそこに住んでいらっちゃって、亡くなってから図書館のコーナーに作りたいなあということであつちゅうとお願いしたり運動したりして1階のあのコーナーを作りました。今年、周平さんは90年。亡くなって20年ということでイベントを特に生まれ故郷の鶴岡で行います。同時に館長もイベントを考えているようなのでぜひとも。

周平さんのコーナーっていうのは鶴岡の記念館にはちょっとしたコーナーがあるんですが、全国でここだけなんです。住んでいたっていうことがあるんで。ぜひ皆さん今年、来年は注目していただいて…テレビやなんかでも相変わらず人気があるようですね藤沢さんは。ですからここを拠点としてぜひ宣伝していただいてちょっと盛り上げていただけるとよいかと思ひます。あと、練馬区で大きなイベントがあります。

**図書館** 今、大泉図書館の周平コーナーでは江戸が舞台の作品と、鶴岡海坂藩が舞台のものに分けて作品展示をしております。できる範囲で周平コーナーを盛り立てていきたいと思っておりますので、ぜひご覧ください。

**利用者** 米沢や鶴岡からもここに何人も見えているようですね。

**利用者** 今日いろいろとご説明していただいてありがとうございました。私から質問と提案をさせていただきたいんですけど。

今日の説明の中でちょっと不思議に思ったのが、40代以上の方が8割以上を占めているということで、ちょっと多いのではないかと思った。それが他の図書館との比較でどうなのかなっていうので、もし練馬区の他の図書館の状況と比べて大泉図書館が特別に多いのかということを教えていただきたい。提案として、情報の発信ということをいろいろとおっしゃっていたんですが、例えば今若い方をどうやって図書館に来ていただくかなと思った時にツイッターとか SNS ですね、鎌倉市の図書館が学校に行きたくなかったら図書館においでよっていうのがすごい話題になった、そういったことができないかなと。あと、近くの図書館でやっているような「ぬいぐるみのお泊り会」とかっていうのもありましたよね。子供さんをどうやったら来れるようにするかっていう。おもしろいなと思ったのと、あとこの図書館のいちばん大きな特徴の一つがすごく庭が素敵だなと思ったんですけど、だから庭を使ったイベントとか庭を使ってお話し会とかよみきかせとか、もし可能だったらいかがでしょうか。

**図書館** 昨年度の利用者アンケート、各館のものがアップされておりますが、他館のところまでは把握していないのではっきりしませんが、やはり地域性はあるかと思います。

平成 29 年度 利用者アンケートより 年代別構成比

	光が丘	練馬	石神井	平和台	大泉	関町
40~49	17.1	23.4	16.9	20.8	16.2	16.9
50~59	19	16.9	18.5	20.4	17.7	20.7
60~69	24.8	18.8	21.7	20.6	23.1	23.4
70 歳以上	23.5	18.5	24.1	16.5	26.2	21
合計	84.4	77.6	81.2	78.3	83.2	82

	貫井	稲荷山	小竹	南大泉	春日町	南田中
40~49	17.9	21.8	21.7	17.3	19.6	15.4
50~59	17.6	12.6	20.4	23.4	20.9	15.7
60~69	25	18	19.3	19.2	19.9	18.1
70 歳以上	21.3	21.4	12.3	18.5	16.9	24.5
合計	81.8	73.8	73.7	78.4	77.3	73.7

情報発信のところで SNS とかツイッターとかのお話をいただいたんですけども、今現在は練馬区の図書館のホームページの中で館でのイベントの告知ですとか活動報告、青少年の事業については青少年のページにあげております。なので、大泉図書館独自で SNS をしたりツイッターをしたりということは練馬区の場合は難しいので、中央館が管轄しているホームページでの発信という形になります。あとは、アナログかもしれませんが、「図書館だより」ですとか館内に掲示するようなもので、告知や報告をさせていただいております。

今回ご説明したものは地域を切り口にしてしているので、児童サービスに関してはあんまり出てこなかったんですけども、児童サービスの方も活発に活動しております、ぬいぐるみのお泊り会も実は実施したことがございます。庭園が大泉図書館の特徴ということもありまして、毎年4月の子ども読書の日には2階の庭園にテントを立てて庭園お話し会をしております。また1階の庭園にはいろんな木があつて虫がいたりするので庭園を使ったイベントをしたりもしますし、あとはこの近辺は森がありますので、10月に近隣の西本村を散策するような子供のイベント、どんぐりを拾ったりするような工作会をしますとか、近隣の自然環境をうまく活用したイベントというのもやっております。

**利用者** すみません、存じ上げませんでした。

**図書館** いえいえ、そのところ情報発信が足りないところがもったいないなと思っている部分なので、引き続き情報発信していきたいなと思っております。ありがとうございます。それ以外にも、こんなのやったらおもしろそうとかいうのがありましたら、お声かけいただければと思います。よろしくお願いいたします。

**利用者** 去年だったか、図書館の利用者数をもっと増やせないかみたいな話が出た時

に、今までおっしゃっていた情報発信って図書館に来る人しか、あとホームページを見る人しか、ということは図書館に非常に興味のある人にしか向かってないと思うんですよ。例えばここを使ってらっしゃる方がこういう事業やるって知りませんでしたっていう状態なので、それって情報の発信としてはひどく弱い気がするんですね。さきほどおっしゃっていたみたいにツイッターとか SNS だったら子供たちすぐに飛びつきますし、ちょっとそういうところで法律上の問題とかいろいろあると思うんですけど、例えば大泉学園の駅っていうのは練馬区内でも一番乗降客が多いとこなんで、あそこの近くに窓口があるんであれば、でも窓口非常に駅から行っても一番上で遠くって行きづらいですよ。だから、例えば西武鉄道さんをお願いをしてちょこっとだけでもスペースもらって一時 1 日だけでも貼っておけばそこを通っている何万人もの人が、大泉図書館ってここから行けるんだ、こんなイベントやることがあるんだ、そういうことを周知していけばそういうとこに引っかけた人たちが自分から情報を取ろうとしてくれればいくらでもここにたどり着けると思うのですが、そこまできつと至っていないのだと思います。

**図書館** この 6 年間おっしゃったようなことも考えてまいりました。西武鉄道の駅につきましては、なかなか厳しいです。当然考えますよね。駅からここは遠いので、でも駅には人がいっぱい集まるじゃないですか。

**利用者** 一応やってみたんですか？

**図書館** はい。受取窓口には当館の情報を置いています。

**利用者** それも図書館を利用している人にしか見ることができないので。利用していない人になんとかアピールできないのか。私もここに来るたびに随分いろいろなサークルの活動をしているし、いいイベントをたくさんやっている、でも私が例えば落語のチラシを見て、あ、やろうと思った時にはもう定員いっぱいになってるというようなことがあるんですけど、たくさんそういうイベントがあるということはいいいことだと思うが。

娘は本がすごく好きなのに、図書館どう思うと聞いたら「使いづらくてもうやめたわ」っていうんですよ。それが 2、3 年前に指定管理者が入る前かもしれないんですけど、司書のところで自分がこれこれこういう本を欲しいんだけどって聞いてもちゃんとした答えが返ってこない、それから彼女は SNS をやたら使うくせに、ホームページはめんどくさい。わかりづらい。探しても検索が

ひどくよくない。これは事業統括の方の問題だと思うので今度光が丘の方にも行って話は直接してこようと思います。だから、子供たちはそう思っているので本が好きな子でも結局ここにきても好きな本ないんだもん、だから行くのやめたわって、しょっちゅう本を読んでいる子でもそうなんですね。ですから、せっかく図書館は本来だったらいろんな意味で使いたい子がいるはずなのにそこに届いていないっていうのは。例えば文庫さんなんかはすごくいい活動をやってらっしゃるのを私知っているので、もっと図書館に来ない子供たち、図書館に来ない大人たちに何とか伝わらないかなと思っていて、障害者の方も、これも光が丘の問題なんですけど視覚障害者なんて都内に何万人もいるのに実際に利用している人っていうのは手で数えられる程度しか利用していない、対面朗読室もおそらくここはふたりしか利用していないので、本当は地域にたくさんいるはずなんです、そこを例えば図書館の方から、今ひとりいらっしゃる方は図書館で対面朗読やってるよと図書館の人に聞いて初めて知って今はヘビーユーザーになってらっしゃる。そういうつながりを図書館ができると思うのでこのところでいろんな団体さんと、まあ西武鉄道さんは利益いちばんでしょうからなかなか難しいんでしょうけど、なんとか情報の中心になるってことを今目指してらっしゃるってことなんですけどそういったことを。

**図書館** 使われない方への情報発信が難しいので、今年度計画しておりますのは、区内の町会掲示板で、図書館はこんなところだと告知することをやろうと企画しております。

**利用者** でも回覧板なんていろんなものが入ってくるのであそこらへんにちょっと 1 枚入れていただければと思います。

**図書館** 回覧板も町会に入っていない方が多くなってきていて難しいということなんですけど、図書館じゃないところで情報を伝えられるような試みとして、町会掲示板は今年度やろうとしております。それと、何か障害をお持ちの方々へのサービスということで、練馬区の場合は統括しているのが光が丘図書館なんですけれどもそれだけではなくて地域の弱い立場の方に寄り添っていかれるようにするためには何をしたらいいかというところは常に考えておりますが、自分たちがよくわかってなければ動けないと思っておりますので、地域で行われている勉強会に出たりして何をしたらいいのかっていうところを学んでいる途中でもあります。



- 利用者**      ここには保健相談所も近くにありますが、障害者の施設とかも結構ありますよね。
- 図書館**      大泉障害者地域生活支援センターさんのところでの勉強会ですとか、保健相談所とも協働で事業をしたりいろいろお話をしておりますので、そういったところとは密に関係を作っているところなんですけど、まだ花が咲くところまでは行っていないところです。
- 利用者**      そういうことを地道にやってくださっているということが分かっただけでもうれしいので、どうぞ、続けてください。
- 図書館**      なかなか途中のところは言えなくて、難しいんですけど、やっていきたいと思っております。それが大泉図書館の地域性にいちばん近い、目指すところなのかなと思っております。例えば今日も来ていただいているんですけども、まちづくりに関係している方からご紹介いただいてそういった勉強会とかも積極的に参加して町の方と顔が分かる関係になろうと思っておりますので、長い目で見てください。
- 利用者**      ちょっと付け足しなんですけど、そういう会を私どももやはり絆として持ちたいんですよ。全然この大泉学園一円で会を持ってないんですね。そういう絆がないので。町会がありますけど町会は 30 パーセントなんですよ。あとの 70 パーセントは全然フリー、こんな状態ではとてもできませんですから、だからやはりこういう会もですね 1 年に 1 回でなくてももう少し回数を増やしていただいている情報交換したらどうですか。
- 図書館**      この会は図書館の利用者懇談会なので、もっと違うものというイメージでしょうか。利用者懇談会は練馬区の光が丘図書館が仕切っている大きなところがあるので、それはそれとして、今おっしゃったような地域の絆について考えるような会っていうことですよね。
- 利用者**      ここのビジョンにも書いてありますように、結局地域の課題ですね、それを解決するときに図書館がやったんですよ、過去。図書館がいろんなものを持ってるんですから、先走りしてですね、図書館員がどンドンどンドン先走りしてダメになっちゃったんですね。だからそこらへんもありますから、地域の人が集まっていいろいろ考えて話し合っていくのがいちばんだと思うんですね。その核というか場所というかそういうことでいろいろお力を貸してくれるとよろしいかと。

- 図書館** 大泉図書館でいろんな団体の方が活動されてますけど、そういうのもありますし、おっしゃったような会を立ち上げてくださいましたら、図書館としてできることはすべてするつもりです。例えば場の提供ですとか、何か必要な情報があればそれを提供するのが図書館の役割だと思うので。
- 利用者** そうです。リテラシーを供給していくっていうのが使命ですからそういうふうにしていただきたいと思うんですけど。
- 図書館** そういった会を立ち上げていただければと思います。その中でいろいろご相談させていただきます。
- 利用者** 地域をつなぐって意味でわたくし NPO をやってまして、おでかけ図書館を聞いて、そうかそうやってつなげられるなって思ったんですね、ぜひ後でお願いしようと思います。金曜日ごとにお年寄りの食事の会をやってます。今、紙芝居をどこかで開く写真を見てひょっとしたらそういうプログラムが喜ばれるんじゃないかなと、10 人前後ですけど、昔にかえって 30 分とかそれくらい短い時間なら皆喜ぶかなと思って、ぜひそのおでかけ図書館を実現させていただきたいと思います。
- もうひとつは、私たちは通信を毎月出しています。そういうのをここに置かせていただけるんだということを今日発見して大変うれしく思います。これからも地域の小さなつながりですけれども 10 年ぐらい活動してますから。たぶん紙芝居を見たお年寄り図書館に出向くんじゃないかなと思って、ふっとそういう思いもしました。
- 図書館** おでかけ図書館なんですけど、何年か前から近隣にあるそあ季の花保育園と、大泉学園デイサービスセンターに行っております。去年の懇談会の時にこのお話をしたら、言ったら来てもらえるの？といったお話をいただいてたんですね。その方なのかどうかはわからないんですけど、今年度はそれ以外に東大泉学童クラブの方からお電話いただきまして、今年度はそちらにも行ってまいりました。回数などのご相談かと思いますが、そうやってちょっとずつでも広がっていけばいいかなと思いますし、認知症になってしまった方も進行を少しでも遅らせるというところで、回想法というような手法がありますが、昔の暮らしだとか昔話だとかにふれることによって、少しでも改善できるということがあるようですので、やはりそのような取り組みもやっていければと思います。少しずつしか進めないと思いますが、やっていきたいと思っております。

地域とのつながりがある方にもいろいろ勉強会などご紹介いただいて、この町にどんな方が住んでてどういうことが課題なのかとか図書館の中にいるだけではわからないことって多いんですよ。先ほどの障害者の方こんなにいるのになかなか使えないとか、図書館の中だけ見てるとわからないというのはやはりいろいろ教えていただいてそれを学んでじゃあどういことをしたら少しでも役に立ってるのかなっていうところを考えていきたいと思っています。利用者数を増やすとか貸出冊数を増やすとかだけじゃないなと思っています。受取窓口ができればそこで本を借りる人や借りる冊数がそちらにも移ります。

大泉図書館としては、一般の方、子供、高齢者、障害をお持ちの方、いろんな人にやさしい図書館になりたいと思っていますので、そのための取り組みを少しずつでもしていければと思っています。

**利用者**      いろいろとお話伺っていていちばんやっぱり問題だと思ったのは、利用者が 40 歳以上の人が 80 パーセントって、その理由をずっと考えていたんですけど、子供達が学校から帰ってきて図書館に来る、高学年ですと冬の時間になるともう暗くなりますよね、だからよほどでないと来れないと思うんです。それと、ひとつ大きいのは「ひろば」っていうのができましてね、学校で、お家へ帰らないで登録してあればそのまま学校にいる、そのために児童館に来る子も減ってるんですね、それで児童館のおはなし会しようと思ってほんとに児童館も子供達少ないんです。帰る時間を考えると、ひろばに行ったりとか。ですから図書館が少なくなってるのはそれが大きな理由かなと思うんですよ。そういう制度っていうかが変わってきたのですよね。それから大泉図書館を作ります時に地域の図書館っていうのをいちばん大きなテーマにしてたんですよ。ほんとにそれが実現されてきているなというのを感じております。図書館から出向く、ほんとに常に図書館っていうのはどうあるべきかっていうのは忘れずに考えないといけないなと思うんですよ。個人的な意見ですけど、ぬいぐるみお泊まり会っていうのはあれがほんとにどうなんだろうっていうのがずっと疑問に思ってるんですね。それに時間かけるんだったらもっとう、あるんじゃないか、というのは思わなくないです。そういうことも含めて図書館はどうあるべきか児童サービスはどうあるべきか、ただ喜ばせるイベントみたいなのはいっぱいあるんですからそうじゃなくてももっとほんとに、言葉で伝えるっていうようなことも力を入れていく必要があるんじゃないかなというのを私

は日常思っております。

広報についてですけど、私たちも小さな会なものですから区報に載らないときどうやって広報しようかなんて考えて実際にはできなかったんですけども、ひとつはスーパーとかそういうところに掲示してもらってね、埋没しちゃうんですけど例えば大泉図書館だったら大泉図書館のカラーを決めちゃえば、それでスーパーでそれが大泉図書館の情報だってわかるとか、ちょっと夢みたいなことを考えながら聞いておりました。

**図書館** 確かにぬいぐるみのお泊り会は流行ってますよね。大泉図書館でもやりました。より簡単な方に流れがちですけども、バランスをとって子供事業についてもやっていきたいと思っておりますし、そういった子供のもっと前、お母さんと赤ちゃんみたいなお子さんがいるときにお母さんが図書館に来やすい環境って今までなかなかなくて子供の声がうるさいっていう年配の男の方とかいらっちゃって、お母さんが恐縮してしまって図書館に来なくなっちゃう、子供に本を与えられないし自分の本も読めないっていう環境があったりするので、今年度からそういった子供をお持ちのお母さんを支援するために託児の事業をしております。隔月で実施し始めたところですが。午前中の何時間か、お子さんがそんなに離れてると泣いちゃうので 1 時間ぐらい預けてお母さんはゆっくり読書をして、図書館に来るっていう形ができればなということでやっています。小さいお子さんなのであんまり大勢預かれませんしお子さんの体調によっては難しいこともあるんですけど、小さな試みですけどそういったことはじめております。

**利用者** 私は個人的に障害者の働き場の NP0 法人を立ち上げております。図書館の近くの区民農園を借りておりますので畑仕事をした後に夏なんかはこちらを利用させていただいてるんですけども、知的障害の人たちなんですよ、18 歳以上ですから、そういう人たちが来た時に図書館のどこに行くのかなと。前は 1 階に幼児のところがあって、絵本やなんか見れたかなと思うんですけど今は幼児の部署は 2 階に上がっちゃてる、でも彼らは大人ですから、大人としてのプライドもあったりするのでそういうの図書館の方ではどういうふうに扱っていただいているのかなっていうのが。障害がある人っていうのは一部の人にしか理解、興味がないのでなかなか分かっていただけない部分があるので、そこらへんがどういうふうに。現場で、私たちはどこへ行けばいいかなっていうのをス

スタッフ達が導いていくために個々の図書館ではどういうふうに対処していただけるのかなというのをちょっとお聞きしたいと思って。

**図書館**      やはりその部分一番難しいところで、知的障害があるような方でも割と年齢層が低ければ2階にいらっしゃっていても違和感はないんですが、ある程度の年齢はいってるけれども本人の中ではもうちょっと子供という意識を持っているところだったりすると、本人は例えば児童室で普通にいるつもりなんだけど児童室にいるお子さんとかお子さん連れのお母さんからすると違和感を感じることがあると思うんです。障害を持たれてない方たちに理解していただくっていうところからまず、知っていただくのがいちばん最初にやるべき事なんじゃないかなと思っております。

大泉障害者地域生活支援センターさんに行きまして、そういった障害のことについて勉強していて、障害をお持ちの方について一般の人に知っていただくような事業を今後しようと検討しているところです。それをわかっていないと本人は別に悪気があってやってないのに一般の人から見たら、痴漢に間違われたり、誤解がもとになって警察を呼ばれたりしたことがあったというお話をお聞きしております。どちらがいいとか悪いとかじゃなくて、知らないが故の問題だったりするので、そういったところをちゃんと理解していただけるようなことをやっていくのも図書館の役目だと思っています。

**利用者**      この地域って障害者の施設が多いとこなんですよ。それから老人ホームも結構ありますよね。ですからそれもちっと混ぜていただくと少し理解が深まるかなと思いますけれども、やっぱり図書館は図書館の役割がものすごくあると思うのであんまり図書館、あれ？っていうように広げられたら本筋から離れてしまわれるんじゃないかなとちょっと心配になってしまいます。

**図書館**      そこはバランスだと思います。そういったことも、この地域では求められているのかなと思っております。

**利用者**      小学生に関しましてはね、ここら辺には児童館や区民館がなくて図書館とか体育館が子供たちの行くところにはなってるんですけど、高学年になれば時間的にちょっと無理っていうのがありますよね。ただ、わたしがびっくりするのはやっぱり孫なんかが学校でいろいろな図書館の情報をもらってきて何日には何があるとかっていうのを結構子供たちはしっかりとキャッチしてるようですので、めげずに続けていただきたいと。

## 図書館

小中学校へは学校支援員が伺っておりますのでそういったところで告知をさせていただいたりということもあります。

当館でも障害者雇用をしております、そういったつながりがあります。練馬区のレインボーワークが雇用の担当をしているんですが、今年度7月、作業所ではなくいろんなところで働くための職場見学会というのをここで実施させていただきまして実際に当館で働いている障害者雇用のスタッフが、私はこういうところに気をつけて働きだしましたとか、今こんな感じで働いていますという話をしました。図書館も障害者雇用で働く現場のひとつとして図書館見学をしていただきました。障害者雇用を受け入れる際に気をつけていることなどをお話しすることができましたので、図書館の本筋は守ったうえで図書館はこうじゃなきゃダメっていう考え方ではなく、これだけ時代が変わってきているのでいろんな方向に向けてやってみるべきなのかなと思っています。図書館についての考え方がかつては貸出主義みたいなところがありましたけれども、それだけではないという時代になってきていますので図書館像も時代とともに変わってきているのではないかと思います。

地域によってもその考え方って変わってきてると思いますので、本筋を守りつつもとにかく地域にあった形になっていければいいのかなと思っています。

## 利用者

ただ今のお話のように地域の情報発信のようなかんじのことは大変結構なことだと思いますが、先程認知症の件でだいぶいろいろお話し下さりまして、関心を持ってくれる人が多いって思いましたので同様にもう少し広げていただいて医療関係の講演会をもう少し何か開いていただいたらいいんじゃないかと思いますね。歯が痛い肩が痛い腰が痛い、そういう人は多いと思うんです。練馬のたくさんある病院のどこへ行ったらいいんでしょうかっていうぐらいわからないことが多いんですね。例えば光が丘病院から講師を呼んで肩関節の治し方手足のリハビリということを講演していただければ地域の利益になると思いますね。

それから、医療関係の図書がたくさんございますが、なるべく最新の情報のものを購入していただけるようにした方が助かると思います。

こちらからこういう本を購入していただきたいというような希望があった際、それを選ぶときどのようなお考えのもとにお買いになるのか簡単でいいですからご説明をいただきたいと思います。

**図書館** 医療関係の講座、確かに需要があると思います。なかなかどの講座をやるか難しいところではあるんですが、確かにそういった講座をされているところもありますので、今後の運営の中ではそういったことも考えてまいりたいと思います。医療関係の資料は確かに最新のものじゃないと意味ないですよ。当館には医療関係の担当の棚の者もありますので、選書する際に考えていくことができると思います。

**図書館** 購入希望の件なんですけれども、用紙があるのはご存知ですか。用紙に書いてカウンターに出していただいたものを週に 1 度選書会議というのを中でやっておりまして、その際に買うかどうかを選定しています。選書する場合には、練馬区の収集基準がありますので、例えば医療に関する本はこういうものを集めなさいというような基準がございまして、それに従って選んでいます。広く、なので医療だとほんとに、ほんとなのかな？とか先生によってこういう方のはたくさん著書があるので信用できるとかそういう結構選ぶ基準が広くありまして、その中で図書館にふさわしいな、大泉でほしいなというものを会議の中で選んで、それを統括している光が丘図書館に買ってもいいかどうかを打診しています。大泉図書館だけの意見で買えるものではないんですね。時々これは予約が入ってからじゃないとちょっと購入は、ということもございます。なので、すべて購入希望を出しているものを受け入れるということはちょっと難しいというふうに思っています。買ったものに関しましては新刊図書として毎週土曜日、新刊図書のコーナーに並んでおりますのが新しく入れるもの、そこに並んでいないものでも、もう既に予約で回ってしまっているものもあるんですね。新刊図書の下の棚に今週の新着図書というリストがございまして、それを見ていただくとどういうのが入っているかというのが分かりますので読んでいただければと思います。ホームページにも新着図書というのが出ています。ぜひご覧ください。

**利用者** 去年のこの会の時に布の絵本の展示のコーナー、皆さんに PR するコーナーをお願いさせていただきまして、7 月に雑誌のコーナーに展示をしていただいたということなんですけど、できましたら厚かましいとは思うんですけど、常設で。私自身も去年サークルに関わるまで 2 階の児童書のコーナーに上がったことがなくて、最近孫を連れてじゅうたんコーナーに遊びに来させていただいてるんですけど、意外と、以前は下に児童書のコーナーがあってそこで子供が遊ん

でるっていうようなイメージがあったんですが、視界に入らないとなかなか児童書のコーナーに本がたくさんあるというのがピンとこないで、布の絵本も含めて児童書のコーナーがあるよっていうのをアピールするコーナーの中に布の絵本をひとつ入れといていただいて、アピールしていただくとやはりいいんじゃないかなと、得るものも大きんじゃないかなと思っております。また、うちのサークルでは今お手伝いで南大泉の図書館に布の絵本の作成のボランティア講座ということで4回続きの講座をお手伝いをさせていただいておりますので広く皆さんがかかわれるような形で大泉の図書館でも布の絵本を作ってるっていうのを、作るのもだし、さわっていただくのもだし、大人も貸出ができるんだというようなアピールがかなえていただけるといいなと思っておりますのでぜひよろしくお願いします。

あとひとつ質問なんですけど、先程から40歳以上のというのは40代ですかそれとも40歳からということですか。

**図書館**      利用者アンケートに年代を書く欄がありまして、40歳～49歳、50歳～59歳、60歳～69歳、70歳以上の部分が多くなっています。

**利用者**      実際に年配の方が結構雑誌のコーナーとかいらっしゃっているのが目立つので40代以上っていうのは何か数字のトリックで実際はもっと平均年齢が高いのかなと思ったんですけど、

**図書館**      平均年齢じゃなくって40代は、50代は何パーセントとしていくと40代以上の方で80パーセントを占めるという結果が出ております。それはこの館の特徴でもあるし、逆に言うともっと若い世代の方も呼び込まなくちゃいけないのかなっていうところでもあるし、と考えております。現状そういった年代の方が多いのであればその年代の方に向けたサービスをきちんと考えなくてはいけないのかなというように捉えております。

**利用者**      実際40代以上だけじゃなくて60代以上とか分けていただくとか、足すんだったら40以上とか60以上とか言っていただくと具体的な年代がわかるなと思いまして。いわゆるファミリーの年代と子供が独立した60以上と生活のスタイルも違ってくるので全部それにくくられちゃうとなんか数字でごまかしているのかなって。

**図書館**      利用者アンケートの結果をざっくり言ってしまったのでそれぞれのパーセンテージをはっきりお伝えできればよかったですね。



なかなか展示スペースにも限りがあるんですけど、確かに1階と2階に分かれてしまっているんで子供の本、なかなか大人が上にあがって自分のためにと  
いうのも難しいのかなと思うので、ちょっと引き続き考えていければと思って  
おります。今年から始めた事業として、「大人のための絵本の会」というのがござ  
います。これも去年の利用者アンケートでこういった会があったらいいなと  
いうご意見をいただいて、始めたことなんですけど、毎回10人前後の方がいら  
っしゃって会を行っているんですが、ご自分が気に入った絵本を持ち寄ってそ  
れについてこんなところがすてきってお話をいただいています。

その会で紹介していただいた絵本について1階でこういった本が紹介されま  
したという展示をしているんですけども、やはりそこで展示することによっ  
て大人の方一般の方が普通に見る機会が増えて借りられていくということが多  
くなりますので、確かに、別に絵本は子供しか読んじゃいけないというわけ  
ではないので、大人の方も利用していただければと思います。大人の本は1階、  
子供の本は2階というくくりだけでなくしていかなければいけないのかなとは思  
っています。

**利用者** 大人が2階にどんどん入っちゃっても構いませんか。なんとなくやっぱり子  
供連れてじゃないといけないのかなんて。

**図書館** 大丈夫ですよ。

**図書館** 先程の年代の話なんですけど、利用者アンケートの総数そんなにすべてを反  
映している訳ではないんですけど、その中での話しとしまして40歳から49  
歳16.2%、50歳から59歳14.7%、60歳から69歳22.2%、70歳以上が27.1%  
ということなんですけど、やはり年代が上の方が多いですね。30歳から39歳が7.6%  
20歳から29歳で2.4%19歳以下が6.4%。これはあくまでも利用者アンケート  
の中での話しですけど。こんな状況になっております。

**利用者** おでかけ図書館とか、いろんなおはなし会とかなさっているというのはあま  
りよく知らなくて、そういうことがあってもし図書館の方が大変でしたら言っ  
ていただければ協力させていただけるかなと思います。

それとうちの孫が4年生の女の子ですけど、やっぱり小学生も結構忙しくて  
友達と遊んだりひろばに行って遅く帰ってきたり習い事も少しですがやってい  
たりするので、ただとても本が好きなので週に何回もこちらへ伺って5冊6冊  
って借りてくる、それがすごく簡単というか、大人で言うとライトノベルとか

漫画的なイラストが付いている読み物みたいなのが多くてだからあつという間に読んでしまうんです。でも何度も何度も図書館に来てるので、人数を増やすということも大切だと思うんですけど、何度も何度も来てるお子さんと例えば顔見知りになってちょっとこういう本もあるよっていうようなことを言っただけならばごくそれは図書館本来のお仕事じゃないかなと、はい。

**図書館** 小学生のお子さん向けに、「ほんとにもキッズクラブ」という事業があるのでぜひご案内してください。この会では小学生でもいろんな本を紹介することもできますし、自分達で活動したりとても楽しい会となっています。

**利用者** 最後にいいですか。最後の最後にいいですか。

今いろいろ意見が出ましてですね 1 年に 1 回こんなことをやって、また意見を言ってオピニオンを言いたいという方もいらっしゃるだろうから、利用者の声を何かの形で館の方に伝わるのが大事だと思うんですよ。だから私が微力ながら何か呼びかけて募集しましたら集まってくれていただくとしたら、皆さんどうぞご参集ください。やはり 1 年に 2 回くらいやるのが良いかと思えますのでよろしくお願いいたします。

それから手前味噌の話ですけど、石神井で講演会をやってくれということで大泉図書館の出前をすることになりました。私が何か言い出したらそういうときにはどうぞお集まりください。

**利用者** 講演会の話がありましたけど、今子供も親御さんもいちばん興味を持っていることって「AI」人工知能のことなんですね。特に今の小学生が社会に出るころ世の中の仕事が様変わりしている、そういったときのことを専門家呼んで逐一講演会開いていただいたら人はすごく集まるような気がするんですね。何しろ今の仕事は半分なくなってもう事務職なんか 99 パーセントなくなっちゃうっていう世の中ですから、放っとくと子どもたちや親の意思に関係なくすごい格差が広がる社会になっちゃうからどういうふうにして生きていったらいいのか、興味持っていますから。

**図書館** 未来に向けてのでしょうか？

**利用者** もうすぐそこなんですよ。今どんどん変わっているし、そのお話はすごく興味を持っています。子供も親も！

**図書館** ありがとうございます。